

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

25-Hydroxyvitamin D levels among 2-year-old children: Findings from the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

2歳児の血清 25 ヒドロキシビタミン D 値の実態: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC pediatrics

年: 2021

DOI: 10.1186/s12887-021-03005-3

筆頭著者名: 羊 利敏

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

本研究では、日本人の小児において、2歳時の血清 25ヒドロキシビタミン D (25(OH)D) 値の分布から、ビタミン D の不足・欠乏の割合を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査における詳細調査に参加している子どもを対象とし、2歳時のデータを用いた。ビタミン D の不足・欠乏の判定は、血清 25(OH)D 値が 20 ng/mL 未満を欠乏、20-29 ng/mL を不足とした。血清 25(OH)D 値について、性、測定の実験室、地域別に記述を行った。

結果:

欠損を除く 4,655 名を分析対象とした。血清 25(OH)D 値の中央値は 24.7 ng/mL であり、ビタミン D 欠乏 (<20 ng/mL) と判定された者は約 25% であった。女兒の血清 25(OH)D 値は男児と比べて低く、季節別にみると冬(12~2月)と春(3~5月)、また緯度が高い地域ではビタミン D 欠乏の発症頻度が高かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では日本人の 2歳児における血清 25(OH)D 値の分布を明らかにした。研究の限界として、解析に当たって 4ng/mL 以下の数値を 4ng/mL として扱ったことから、集団としての血清 25(OH)D 値の分布を高めに評価している可能性があることが挙げられる。また、ビタミン D 欠乏と不足に関する判断基準については一定した見解が得られておらず、他の研究と単純に比較するのは難しい。

結論:

本研究では、2歳児の約 4分の1 はビタミン D の欠乏状態にあった。性、季節、緯度は血清 25(OH)D 値に影響を与える要因であることが示唆された。ビタミン D の栄養状態に影響を与える要因について、今後さらなる研究が必要である。